

お知らせ① より安全により快適に入浴ができるようになりました。



この度、『(財)中央競馬馬主社会福祉財団』様より助成をいただき、特殊浴槽設備を更新することができました。新しい浴槽に加え、昇降するストレッチャーで、利用者の残存機能を活かしながら、より一層快適に、また、安全に入浴していただけるようになりました。ありがとうございました。同時に個浴も整備され、一人でゆっくり入浴ができると大好評です。

お知らせ② 年賀はがき、切手配分寄附金でリフト付車両購入!!



この度、社会福祉法人白鷹福祉会では『日本郵政公社』様より「年賀はがき配分寄附金(200万円)」をいただきました。寄附金は『8人乗りリフト付き車両』の購入に充て、特別養護老人ホーム白光園をご利用されている方のリフレッシュドライブや地域行事等への参加の援助、ショートの手送迎や通院介助など幅広く活用させていただきます。



交付式 [山形中央郵便局]

平成17年度社会福祉法人白鷹福祉会決算状況

一般会計 白鷹福祉会合算(本部・白光園・白光園DSC・はっぴーDSC・はっぴー在介・白鷹陽光学園)

貸借対照表

(平成18年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債及び純資産の部	
流動資産	546,313	流動負債	40,519
固定資産	2,783,445	固定負債	232,386
		負債の部合計	272,905
		基本金	700
		国庫補助金等特別積立金	2,026,910
		その他の積立金	368,700
		次期繰越活動収支差額	660,543
		純資産の部合計	3,056,853
資産の部合計	3,329,758	負債及び純資産の部合計	3,329,758

事業活動収支計算書

(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

事業活動支出	1,124,343	事業活動収入	1,232,779
事業活動外支出	37,773	事業活動外収入	37,895
特別支出	109,298	特別収入	107,840
計	1,271,414	計	1,378,514
当期繰越活動収支差額計			107,100
前期繰越活動収支差額			539,566
その他の積立金取崩額			13,877
次期繰越活動収支差額			660,543

※詳細は法人事務所において閲覧等の方法により開示します。



27年目の白光園に思う

白光園 園長 遠藤れい子

白光園は豊かな自然環境に恵まれ、四季折々の花鳥風月を利用者の方々に心ゆくまで楽しんでいただける立地条件の良い場所に建設されたことに、二十六年の歴史を経て、関係された先達の方々に改めて感謝申し上げます。そして過去の利用者の方々に感謝申し上げますと共に、現在の利用者の方々に、和やかで、癒される生活を味わっていただけるように、日々サービスの質の向上に全職員で取り組んでおります。お陰さまで地域の方々と関係機関の多大なご協力とご指導をお受けしながら、高入所率で白光園も無事二十七年目を迎えることができました。これもひとえに関係の皆様のご指導の賜物であると改めて深く感謝申し上げます。

平成十七年十月の制度改定、平成十八年四月より介護報酬の改定と社会福祉を取り巻く環境、制度の大改革の中、安全管理体制、感染管理体制、第三者評価事業等サービスの質の向上に繋げる意識改革が求められ、常にそれらに対応すべく職員一丸となり誠心誠意努力し、利用者ニーズに基づいた個別サービスの計画に添いながら、サービスの質の向上に努力し、健全経営を推進してきました。

しかし、国は持続可能な介護保険制度を構築する介護予防重視の内容を提示しているが、利用者視点の、満足できる制度環境でなければ、多様化された選択サービス内容が揃えられず、利用者負担増と、事業所側も市場原理の競争に淘汰され、介護報酬収入減の方向、厳しい経営状況を迫られる社会福祉の動向では、将来の社会福祉施設サービスの有り方に不安と疑問を感じている点もあります。

誰しもが公平に年齢を重ね老いていくことを避けることはできません。医療の技術が発達し、介護予防を強化することで保護されながら長生きされる老人増加の高齢社

会を生き抜くには、誰もが平等に必要な時に必要な充実した社会保障の思恵を受けられてこそ、安心して老いて行ける社会をつくることに繋がり、平和で穏やかな世界ができ、少子高齢化を打破する素因であると思えます。

そのような社会が構築できるように、微力ながら社会福祉の担い手として、法令を遵守し、白鷹町の高齢者福祉の拠点として、白鷹に光をと名づけられた「白光園」にふさわしく、「白光園があるので安心して老いていける」「よりよい生き方ができる」と地域の皆様に言われ、求められ愛される施設づくりを目指さなければなりません。職員全員が心ある質の高いサービスが提供できるように職員育成と業務の標準化を目指し、施設職員の専門性、知性と文化的な思考の向上を図る必要があると切に考えております。更に、厳しい現実の中、現在保有する資源(建物・設備・自然環境等)を有効活用し、将来に向け

て建物、設備等のリフォームを図ることで魅力ある居室空間の構築を目指し、国で推進する個室ユニット化の課題も地域性を十分踏まえながら、検討していかねばならないと考えます。又、最後に後期高齢社会に向けて、国の動向を謙虚に受け止め、公平公正な入所指針に基づいた利用契約を施行し、信頼される社会福祉法人の使命と役割を肝に命じながら、経営の健全化を図り、低コストで高品質なサービス提供ができるように、全職員協働で日々研鑽し努力して参りたいと考えております。



何卒、今後とも皆様方のご協力とご指導よろしくお願い申し上げます。